

JASE

現代性教育 研究ジャーナル

2013 年
No. 31

2013年10月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会

THE JAPANESE
ASSOCIATION
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 鈴木 勲 編集人 本橋道昭
© JASE. 2013 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

全性連・第43回全国性感育研究大会報告 1
性教育の歴史を尋ねる⑦ 7
北丸雄二のニューヨークレポート③① 8

「ありのままのわたしを生きる」ために③① 9
今月のブックガイド 10
JASEインフォメーション 11

■全性連・第43回全国性感育研究大会報告

主体的にいきることから 生き方を考える

～いのちをはぐくみ 人との絆を築くために～

□ はじめに

第43回全国性感育研究大会/第21回近畿・北陸・東海地区性感育研究大会が、8月8日(木曜日)～9日(金曜日)の2日間、奈良市の公立学校共済組合「春日野荘」で開催された。

地元奈良県の白鳳女子短期大学の学生も多数参加するなど、1日目232名、2日目306名が全国から参集した。

今回の基本テーマは「主体的にいきることから 生き方を考える」、サブテーマが「いのちをはぐくみ 人との絆を築くために」。

本大会は、全国性感育研究団体連絡協議会・奈良県性感育研究会の主催、日本性教育協会の協賛のもと開催された。また、内閣府、文部科学省、厚生労働省など24の組織・団体の後援を受けている。

今年の古都奈良の夏は、やはり猛暑であった。しかし、夜になると1999年に誕生した「なら燈花会」が暑さを忘れさせてくれる。古都奈良にろうそくの灯り



石川哲也全国性感育研究団体連絡協議会理事長あいさつ

がとけ込み、夏のたった10日間だけ、広大な奈良の緑と歴史のなかにろうそくの花が咲き、参加者の心にさまざまな感動を与えてくれた。

□ 第1日 8月8日(木曜日)

午後1時から始まった開会行事では、石川哲也全国性感育研究団体連絡協議会理事長が、性教育の現状を述べ、その後、大会実行委員長の藤田康子奈良県性教

育研究会会長が、「変化の激しい社会は、性意識や価値観の多様化、性の逸脱行為、性感染症、十代の人工妊娠中絶にかかわる問題、ネット社会におけるいじめや性の加害、被害など憂慮する実態にあります。また性教育は、学校教育のみにとどまらず家庭教育や社会教育の場においても人間関係としての性、ジェンダーの平等、自尊感情、多様なセクシュアリティを含んだ包括的性教育が求められています。本大会は、人との関わりを通していかに心豊かにいのちを育ていけばいいかを考えたいと思います」とあいさつされた。



藤田康子大会実行委員長
(奈良県性教育研究会会長)

1日目の8月8日(木曜日)は、全体会の形式で、開催地報告「奈良県性教育研究会の実践」から始められた。

◆開催地報告

「奈良県性教育研究会の実践」

「いのちをはぐくむ」保護者向けの教材作成

～作成から完成、更に実践へ～

報告者は、藤岡夏枝奈良県性教育研究会・奈良県立法隆寺国際高等学校養護教諭。

藤岡氏は、保護者向け教材の作成の動機と目的を次のように述べている。

「性教育を進めるためには、子どもたちが抱える性に関する社会的な課題の認識と、子どもの現状の把握は大切な要素です。しかし、近年、児童生徒をとりまくさまざまな環境が変化し、性に関する問題が複雑で深刻になり、性教育を進めるには困難な状況にあります。一方、学校現場においては、その都度、性教育の必要性が強調されているにもかかわらず、なかなか定着できていないのが現状です。さらに親は、



藤岡夏枝奈良県立法隆寺
国際高等学校養護教諭

子どもとの関わり方や家族との関係、子どもをどう育てたらよいか、自分はどうあるべきか答えを見出せないままに日々の生活に追われ、悩みや不安を抱えている状態です。

私たち奈良県性教育研究会では、過去に奈良県教育委員会の作成した『高校生のための性に関する教育プログラム』の発行に携わってきました。これを契機に、本研究会として、性教育を推進していくためには、子どもの自尊感情と自己肯定感を高め、情報選択能力を育てていくことと、家庭や地域における子育てを支援することが大切であると考え、保護者向けの教材開発に取り組んできました」と述べ、教材の特徴として次の4点をあげている。

- ① 発達段階ごとに、からだ・こころ・社会的な発達の特徴・保護者へのメッセージを入れ、どの時期の保護者にも使用できる。
- ② 写真や音楽などを入れ、温かく包み込むような内容とし、今までの育児の激励と、これからの子どもの成長がイメージできる。
- ③ 子育てには愛情が大切で、「子どもと向き合う」「社会性を育てる」「命の大切さを伝える」なかで、子どもに自尊感情・自己肯定感・情報選択能力を育てていくことを伝える。
- ④ 教材を使用する場合、実態や参加者等を考慮してアレンジできる。

報告の最後に、教材を使った実践にあたっては、「本教材を活用して研修など展開する場合には、対象者がどのような集団であるか、あらかじめ情報を得ておくことが大切です。また子育ては、手遅れということはなく、いつでもやり直しができるということをしっかりと押さえて忘れないでほしい」と締めくくった。

報告後、城戸茂文部科学省国立教育政策研究所特別活動調査官による基調講演が行われた。

◆基調講演

学校における性に関する指導について

～特別活動、生徒指導における取組を中心に～

講師の城戸茂文部科学省国立教育政策研究所特別活動調査官は、学校における性に関する指導について講演された。

講演の冒頭で、「学校における性に関する指導は、

生徒の発達の段階に応じ、学習指導要領に基づき、体育や保健体育、道徳、特別活動などを中心に学校の教育活動全体を通じて行われます。本年度から高等学校でも新学習指導要領が年次進行で全面实施となります」と述べ、特別活動のなかの学級活動（高校はホームルーム）における性に関する指導に関連する主な学習指導要領の内容項目を次のように整理している。



城戸茂文 科学省国立教育政策研究所特別活動調査官

【小学校】

日常生活や学習への適応及び健康安全。心身ともに健康で安全な生活態度の形成。

【中学校】

適応と成長及び健康安全。男女相互の理解と協力。性的な発達への適応。

【高等学校】

適応と成長及び健康安全。男女相互の理解と協力。心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立。

今回の中学校学習指導要領に「性的な発達への適応」の内容項目が設けられた経緯を解説したのち、生徒指導における「性に関する指導」の留意点を以下のように述べた。

「生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し個性の伸長を図りながら社会的な資質や能力を高めることを目指して行われる教育活動です。生徒指導と言えば、ややもすると問題行動などの対応であるとの考えに止まりがちですが、本来の生徒指導は問題行動などへの対応をはじめ、未然防止や健全育成までも含めたものです。こうした観点にたつならば、生徒指導のねらいと性に関する指導のねらいは重なる部分が多いことがわかります。

また、生徒指導の方法原理として集団指導と個別指導をあげることができますが、性に関する指導においては、個人差や家庭環境などへの配慮が重要で、健全育成や未然防止を目指し、特別活動のような集団指導が中心に展開される教育課程の中で行う性に関する指導と併せて、生徒指導の機能を生かした個別指導を充

実させることが性に関する指導の充実を図るうえで大切です。

さらに、情報化の進展と性行動などの個人差が拡大しているなか、性に関する様々な問題が発生しています。こうした状況のもと、性に関する指導の充実を図っていくためには、学級・ホームルーム担任だけで抱え込むことなく、学校内の全教職員が連携を図るとともに、日頃から学校外の専門機関などとの連携を図っておくことが大切です。こうした学校内外の連携体制は、健全育成や未然防止を図るうえではもちろんのこと、問題行動などが発生した際の適切な対応にも結びつくと考えております」と述べ、「新学習指導要領のもと、性に関する指導の一層の充実を図っていくためには、全教職員の共通理解、保護者や地域の理解を基盤に、各教科などがその特質に応じた役割を果たすとともに、生活場面を含め、学校の教育活動全体を通じて適切に実施してほしい」と締めくくられた。

◆記念講演

万葉びとの生と性

～今、いきるということ～

奈良大学の上野誠教授の記念講演は、基調講演とは様相を異にしたものであった。

現代から時空を超えて「古事記」の世界に話は飛んだ。

司会者から講師紹介のなかに、「上野先生の講演はくせになる」という言葉があった。紹介の言



上野誠 奈良大学教授

葉どおり、たいへん印象的で楽しい記念講演であった。

レジメの中に、上野氏は、「万葉学徒のひとりとして、今、生と性について考える時、私の心に去来するものがある。今日、われわれは、科学の子として、科学性を重んじているのであるが、古代の性は、神話から語り起こされるものであった。神話と歌は、私たちの祖先に、生きる意味と、男女の理（ことわり）を教えた」と記している。

上野氏は、古事記は、「生殖の起源を語る神話」で

もあることを、朗読しながら解説された。以下、その部分を引用するので読み解いていただきたい。

「吾（あ）が身は、成り成りて成り合わぬ処（ところ）一処（ひとところ）在（あ）り」とまをしき。爾（しか）くして、伊邪那岐命（いざなぎのみこと）の詔（のりたま）ひしく、「我（あ）が身は、成り成りて成り（あま）余れる処（ところ）一処（ひとところ）在り。故（かれ）、此の吾が身の成り余れる処（ところ）を以（もち）て、汝（なむち）が身の成り合わぬ処を刺（さ）し塞（ふさ）ぎて、国土（くに）を生み成さむと以為（おも）ふ。生むは、奈何（いか）に」とのりたまひしに、伊邪那美命の答へて曰（い）ひしく、「然（しか）、善（よ）し」といひき。爾（しか）くして、伊邪那岐命の詔（のりたま）ひしく、「然（しか）らば、吾（あれ）と汝（なむち）と、是（こ）の天（あめ）の御柱（みはしら）を行き廻（めぐ）り逢（あ）ひて、みとのまぐはひを為（せ）む」とのりたまひき。（以下略）

（『古事記』上巻、伊邪那岐命と伊邪那美命）

古代、神話の世界に、生き生きとした、そしておおらかな、性の営みがあったことを知らされた講演であった。

第2日 8月9日（金曜日）

午前9時30分から12時まで、5つの分科会が開催された。

◆第1分科会「小学校における性教育の実践」

「りんごの会」出前講座の実践例より

発表は、岡山県りんごの会の浦上量代、池上淑恵、下村聡子の3氏。

「りんごの会」は、親というスタンスで20年間性教育の活動をしてきた団体で、多くの出前講座を実践してきている。「りんごの会」は、平成4年から小学校で実施された学習指導要領で学校教育に性教育が導入されるということで、学校だけでなく地域でも勉強会が開かれ、そこから派生した団体である。

「りんごの会」では、平成8年より、幼稚園、小学



第1分科会「小学校における性教育実践」の発表

校、中学校、PTA、家庭教育学級などのほか、メンズフォーラム、男女共同参画フォーラムなどにも出前講座を行ってきている。分科会では、岡山市内の中規模私立小学校での出前講座の内容を報告した。

◆第2分科会「中学校における性教育の実践」

第2分科会では、「健康教育としての性教育の取組」と「どう防ぐ？ 望まない妊娠・STD」の2つの報告がなされた。

「健康教育としての性教育の取組」は、奈良県生駒郡斑鳩町立斑鳩中学校養護教諭である西村敬子氏の取組である。

斑鳩中学校では、「性教育」「心の健康教育」「栄養健康教育」を健康教育の3本の柱として、相互に関連づけた実践を行っている。

性教育では、「命の尊重」、一人ひとりがかけがえない存在であり、自他肯定の人間関係を構築することを目指している。心の健康教育では、「ストレスとその対処法」、夢や希望を持って生きることの大切さを学ぶこと。栄養健康教育では、「命をつなぐ食」、中学生に必要な栄養を摂取することで、健康な身体をつくることに主眼をおいた指導しているという。

「どう防ぐ？ 望まない妊娠・STD」は、「性についてみんなで語り合おう」「コンパクトで魅力的な性教育の授業に提案」という2つのサブタイトルが付けられている。

4名の男女別のグループに分かれて話し合い、その後、男女それぞれのグループから意見を出し合いながら、性交に関する賢明な意思決定の力を身に付けさせることを目的にした授業で、熊本県宇土市鶴城中学校教諭の大橋勇一氏の実践報告であった。



第2分科会「中学校における性教育実践」の発表

◆第3分科会「高等学校における性教育の実践」

第3分科会も、「思春期の子どもたちの『性＝生の健康』を支えるために」と「ピア・エデュケーションによる高校生への性の教育」の2つの報告がなされた。

「思春期の子どもたちの『性＝生の健康』を支えるために」は、奈良県天理市役所保健師の飯田恵美子氏の学校と協働した取組である。「ピア・エデュケーションによる高校生への性の教育」は、奈良県立大宇陀高等学校養護教諭の城山寿子氏の報告で、いずれもピア・カウンセリングによる高校生の性教育の実践である。

◆第4分科会「青少年の性教育の実践」

第4分科会では、「短期大学における性に関する指導」と「補導現場に見る少年たちの『性』」の2つの報告がされた。

「短期大学における性に関する指導」は、関西女子短期大学講師で養護教諭の養成をしている高田恵美子氏の報告で、独自に行った「学校における性に関する指導についての調査」をもとに行われた性に関する指導の取組である。

「補導現場に見る少年たちの『性』」は、奈良県警察少年サポートセンターの吉村亨枝氏の報告。同センターは、警察本部少年課の付属機関で、少年補導や少年相談、被害少年の支援、問題を抱える少年への継続補導・立ち直り支援などの活動を行っている。吉村氏は「少年を犯罪の被害者にも加害者にもさせない」ための同センターの活動の取組について報告を行った。

◆第5分科会「性とメディアリテラシー」

ケイタイ・ネットトラブルへの対策は、緊喫のテーマになっている。奈良県立二階堂高等学校教員の黒

田恵裕氏は、「性とメディアリテラシー」をテーマに、ケイタイ・ネットトラブルとしてどのような問題、事件が起きているかを列挙し、その対策としていくつかの提案をされた。黒田氏は、報告の最後に次のように述べている。

「子どもたちは『気づいてほしい』『聞いてほしい』と願っています。そして『認めてほしい』『見てほしい』と願っています。これを私は、『き・き・み・み』と自分に言い聞かせています。ケイタイ・ネットの問題も、『人として子どもをしっかり受けとめる』『人としての人との関わりを身をもって示す』ということが基本だと思います」と。

◆課題別講義と参加型講義

午後1時30分から午後3時まで、課題別講義と参加型講義が並行して行われた。

課題別講義Aの講師は、京都府立高等学校教員の土肥いつき氏で、テーマは「トランスジェンダー生徒交流会からの発言」で、土肥氏が中心になっている交流会の活動について講演された。

土肥氏は講演の最後に、「ところで最近、交流会にもうひとつの出会いがあることに気づきました。わたしたちが子どもたちをつなげるだけでなく、交流会に生徒をつれてくる教員や親との新しいつながりを、子どもたちがつなげてくれているということです」と語り、交流会の広がりを実感しているという。

課題別講義Bは、「女性専門外来から見た性の課題と対応について」をテーマに、「若年層の性感染症の今日的課題」と「性犯罪から青少年を守る」ことに焦点を当て、奈良県立医科大学附属病院臨床教授の島本郁子氏が講義を行った。



課題別講座B「女性専門外来から見た性の課題と対応について」



神戸大学大学院川畑徹朗教授の講義

課題別講義Cは、「ライフスキル形成を基礎とする性教育の理論と実際」というテーマのもと、セルフエスティーム（健全な自尊心）、意思決定スキル、目標設定スキル、ストレス対処スキル、対人関係スキルなどのライフスキル形成を基礎とした性教育の必要性和ライフスキル形成を基礎とする性教育プログラム開発の試みについて、神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授の川畑徹朗氏が講義を行った。

課題別講義Dは、最近の現場の性教育、学校における性教育の目標、学習指導要領と性教育などについて「学校の教育活動全体を通して行う性教育」と題して、全国性教育研究団体連絡協議会監事の堀内比佐子氏が、講義をされた。堀内氏は、「性教育は養護教諭が行い外部講師に任せている現状から『教育活動全体を通じて行うべきもの』として、思春期の子どもと関わっている教師全体の意識改革が望まれる」と強調された。

参加型講義は、一般社団法人奈良県助産師会出前講座ハートポケットの菊池光、元山美貴氏による「子どもたちの『生と性』を育む取組～ハートポケットからのメッセージ～」と題する出前講座の活動に関する講義であった。出前講座ハートポケットは2001年厚生労働省より「すこやか親子21」が打ち出されたことを機に、助産師・看護師の有志で「生と性の教室」として、思春期講座に取り組んだのが始まりである。現在、一般社団法人奈良県助産師会の公益事業の一つとして活動している。

◆報告と実践発表

第43回全国性教育研究大会の締めくくりとして、午後3時10分より、開会式・基調講演などを行った



報告と実践発表の様子

飛鳥の間で、大阪府立大学非常勤講師の土田陽子氏の報告と3つの実践発表が行われた。

報告は、日本性教育協会が実施した第7回「青少年の性行動全国調査」に関するもので、「青少年の避妊に関する意識と行動の変化」と題し、避妊行動の分化現象に着目して、①性交相手のいる高校生・大学生の避妊に関する意識と行動、②避妊をいつも必ず行う者と不十分な者の違い、③避妊に関する知識と行動の関係、の3点について分析結果を報告した。

実践発表は、熊本市立北部東小学校養護教諭の清水美夏子氏で始まり、「特別支援教育の視点で行う、通常学級における性教育」の実践発表を行った。清水教諭の実践は、4年生の保健学習「育ちゆくからだとわたし」を中心にしたものであった。

次の実践発表は、岩手県宮古市立江南中学校の岩下孝校長の実践発表で、前任校の副校長の時に、岩下氏自らが実践した「異性の友人との関わり」をテーマにした性教育の実践発表であった。岩下氏は、「今年3月まで勤めていた盛岡市立大宮中学校の実践事例ではありますが、勤務校がかわっても立場がかわっても、授業実践は続けたいと思っています」と述べる。

最後の実践発表は、千葉県立船橋東高等学校教諭の赤澤宏治氏の「高校生に対する子宮頸がんの予防教育」に関する実践の発表。子宮頸がん罹患の若年化が進むなかで、予防教育の重要性と予防行動についての実践をさまざまな統計調査を示して報告された。



午後4時40分、予定通り充実した2日間の性教育研究大会は無事終了した。次回第44回全国性教育研究大会は、平成26年8月8日・9日の2日間、岩手県盛岡市で開催される予定である。

性教育の歴史を尋ねる

戦後・純潔教育編

茂木輝順

第7回 日本性教育協会の活動

もてぎ てるのり
女子栄養大学大学院栄養学
研究科保健学専攻博士後期
課程修了、博士（保健学）

「正しい性認識の研究を行い、性教育の指導と普及を図り、性道徳を高揚し人類の福祉に貢献すること」を目的とした日本性教育協会⁽¹⁾が、1948（昭和23）年7月30日に結成されたのは、前回述べたとおりです。結成後の9月4日には第1回の講演会と討論会を葛飾公会堂で開催し700名余りの聴衆を集めたり⁽²⁾、同じく1948年に、調査部長に就任した高橋鐵が中心となって『人類の繁栄 性教育掛図（初級用）』を作成し文部省・厚生省から推奨を得る⁽³⁾などの活動を開始させています。

それ以後の活動について、代表的なものとして以下の2点があげられます。

①性教育展覧会の開催

1949年から50年にかけて、性教育の展覧会を主催しています。日本性教育協会の結成以前の1948年6月10日から7月30日まで、浅草の松屋百貨店で、日本性病予防協会・読売新聞社主催、厚生省・東京都後援の「性の科学展覧会」が開催されました⁽⁴⁾。翌年に渋谷で、翌々年に新宿で、同様の展覧会が開催された際は、その主催が日本性病予防協会から日本性教育協会に変わっています。1949年7月30日から8月21日の土・日曜に渋谷の東横百貨店で開催された「正しい結婚と性の教育展」は、日本性教育協会主催、厚生省・文部省・東京タイムズ後援⁽⁵⁾。1950年1月4日から29日に新宿の伊勢丹で開催された「正しい男女交際と幸福なる結婚生活展覧会」は、日本性教育協会主催、厚生省・文部省・読売新聞社後援です⁽⁶⁾。これらの展覧会では、年によって若干内容に違いがあるものの、受胎調節、性病、子どもの性教育等に関する展示があったり、性に関する相談所が開設されました。各回とも好評を博し多くの人が訪れたようで、『読売新聞』は、新宿での展覧会について「早朝から未婚の男女や中年婦人などがドツとつめかけた」⁽⁷⁾と報じています。

②キンゼイ報告書男性編の翻訳

アルフレッド・キンゼイが1948年に発表した『Sex-

ual Behavior in the Human Male』は、日本では、1950年にコスモポリタン社より『人間における男性の性行為』として発売されるのですが、その翻訳を担当したのは日本性教育協会です。同書の「凡例」(p.16)には、「わが日本性教育協会においては、協会長東京大学名誉教授医学博士永井潜、及び副会長慶応大学教授医学博士安藤画一を翻訳責任者、明治大学教授藤沢衛彦を編輯責任者として（中略）約二カ月間に訳了した」とあり、永井潜や安藤画一による序文でも、日本性教育協会が翻訳を行った旨が書かれています。日本性教育協会が組織的に翻訳を請け負ったとみて間違いないでしょう。

ところが、1952年ごろから、日本性教育協会が活動した形跡を見つけることができなくなります。これには次のような経緯があったことが予想されます。

1952年6月23日には日本性学会が発足しています⁽⁸⁾。これは、篠崎信男らが結成した性問題研究会が母体となり発足したと考えられています⁽⁹⁾が、この日本性学会の発足をきっかけに、日本性教育協会としての活動は事実上ついでとみられます。永井潜は1956年発刊の著書『性教育』（雄山閣出版）で、日本性教育協会を「日本性学会の前身」(p.362)と記しており、つまり、日本性学会に取って代わる形で、日本性教育協会は有名無実化したと推測できます。

【注】

- (1)「日本性教育協会規約」『日本性教育協会会報』創刊号1948年9月10日発行 p.8
- (2)『婦人民主新聞』1948年9月11日 p.1
- (3)来栖幸子「高橋鐵の出発」『新文芸読本 高橋鐵』河出書房新社1993年 p.35
- (4)『読売新聞』1948年6月9日朝刊 p.2、及び同7月20日朝刊 p.2
- (5)『読売新聞』1949年7月30日朝刊 p.2
- (6)『読売新聞』1950年1月3日朝刊 p.2
- (7)『読売新聞』1950年1月5日夕刊 p.2
- (8)前回、日本性教育協会の下部に日本性学会が位置づけられていた組織図について述べました。1952年発足の日本性学会と1948年に構想された日本性学会に、どのような関連があるのか、今のところ不明です。そもそも1948年の日本性学会がどの程度具体化されたのかもよくわかっていません。
- (9)赤川学『セクシュアリティの歴史社会学』勁草書房1999年 p.281

絵本を通したスマートな教育

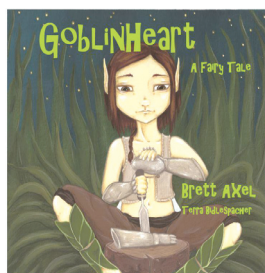
日本の情報番組を見ていて気になるのは、グルメリポートでもなんでも「これは女の子が喜びますね」「これは女性にぴったりで」と、やたらジェンダー規範を前面に押し出した安易なコメントが目立つことです。一方で「スイーツ男子」や「家電王子」をもてはやするのに、一般男子が甘いものやインテリアに興味を示すと「へえ、意外〜!」となり、それがおじさんだったらとたんに気持ち悪がられたりするパターン。それがほぼ無自覚、無批評に、往々にジョークとして繰り返し流布される。これがジェンダー差別（そして年齢差別）の下地を補強・再生産しているのでしょう。

脱ジェンダー化がなんでも正しいとは思いませんが、ジェンダー規範の不自由さを意識・自覚するだけでもかなり対応が変わってくると思います。米国ではそれはもちろんフェミニズム方向から指摘されてきました。それが1980年代のPC（政治的正しさ）の時代を経て1990年代には性的少数者の目線にまで及びました。ヨーロッパはもっと早かったようです。

そんななかで子供向けのジェンダー教育も多様化してきました。学校のカリキュラムだけでなく、子供向けの絵本でもそれが窺えます。

昨年出版された評判の絵本があります。『ゴブリンハート：ア・フェアリー・テイル（Goblinheart: A Fairy Tale）』。ゴブリンとフェアリーという2つの妖精部族がいます。日本語ではゴブリンは「小鬼」、フェアリーは「妖精」と訳されたりしますが、ここではそのまま説明しましょう。

主人公のジュレップは森に住むフェアリー族で成長にしたがって背中に羽根が生えてきます。ところがジュレップはフェアリーではなくゴブリンになりたかった。



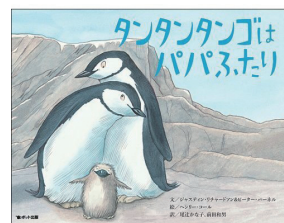
自分の中で大きくなってゆくゴブリンの心、その逆に背中で大きくなってゆくフェアリーの羽根を振り返り見ながら、ジュレップはどうか変身を試みるのです。それを周囲の一族がどう感じ、受け入れ、支えるのか。それが40ページのイラストとともにとても感動的に物語られます。

この絵本のスマートなところは「彼／彼女」という代名詞を使わない、ジェンダーを表明しないでジェンダーの物語を描いているところです。もちろんフェアリー（妖精）は女性、ゴブリン（小鬼）は男性の寓意なのでしょうが、もっとも先端的存在であるトランスジェンダーの問題を普遍的なおとぎ話の形で提出してみました。

ちなみに「フェアリーテイル」は「おとぎ話、寓話」という意味ですが、ここでは「A Fairy Tale」で「1人のフェアリー（妖精）のお話」とも掛け詞になっています。そして「Fairy」とは、俗語で「ホモセクシュアル」たちへの揶揄の言葉でもあるのです。

多層的な読みの出来るこの絵本の作者は詩人のブレット・アクセル。絵はテラ・ビドルスパシャーです。

もう1つ紹介しましょう。レズビアンを公言している前参議院議員の尾辻かな子さんらの訳で日本でも出版された『タンタンタンゴはパパふたり（And Tango Makes Three）』（ポット出版）です。最近ゲイカップル、レズビアンカップルによる子育てがとみに増えています。これはニューヨークの動物園で実際にあった2頭のオスのペンギンによる子育てを心



温まる絵本にしたものです。ちなみに子ペンギンの名前がタンゴ。英語で「takes two to tango（タンゴを踊るには2人必要）」という言い回しがあります。でそのタンゴを踊っていたら「タンゴ」が生まれて3人になった、というのが英語の原題のシャレた意味です。

きたまるゆうじ ニューヨーク在住（20年）ジャーナリスト／作家／元・中日新聞（東京新聞）ニューヨーク支局長。

「ありのままのわたしを生きる」ために



第31回

Jさんの選択

土肥いつき

京都の公立高校教員。24 時間一人パレード状態の MtF トランスジェンダー。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

9月、竜巻や台風など、天災が襲いかかってきています。でも、ほんとうに天災なのかなとも思います。

閑話休題。

女性的な外見を獲得し、女性として他者から認識されるようになるにしたがって、男性名である「謙一郎」が、わたしにとって重荷になってきました。例えば、病院の診察室でお医者さんが「このカルテ、間違ってるぞ！」などということは日常のことでした。健康診断ではいつも本人確認をされました。そのたびに「これでいいんです」と言い続けることは、とてもめんどろであり、しんどいことでした。しかし、もっとしんどかったのは、自分の名前を自分で言わなければならない時でした。単なる自己紹介ならば「姓」だけですが、たまにフルネームを言わなければならないこともあります。わたしにとって「謙一郎」と名のすることは、自分自身に「男性である」ことを突きつけることでした。ある日、当時保育園に通っていた下の子どもとこんな会話をしていました。「R子ちゃん、お名前は?」「土肥R子です。お父さんのお名前は?」。わたしは子どもに答えることができませんでした。その瞬間「ああ、もう限界だ」と、わたしは感じました。

しかし、改名を躊躇させるものはいくつかありました。ひとつは親でした。親の思いがこもった名前を変えていいのか。でも、説得する以外ないと思いました。

もうひとつは家族でした。Jさんの答は「頭ではわかっているけど、心がノーと言っている」でした。ある日、当時小学校5年生の上の子どもに思い切って聞いてみました。「パパな、名前を変えたいんやけど」「どういう名前にするん?」「いつきやけど」「やっぱり。だって、土肥いつきでいっぱい郵便きているもん」。そして「名前を変えるの、どう思う?」とたずねると「いいんちゃう」という返事が返ってきました。Jさんの反対理由のひとつは、子どもへの影響でした。子どもの返事はその心配を溶かすものでした。

もうひとつの躊躇はわたし自身の中にありました。在日の子どもたちに「自分の本当の名前を名のろう」

と語ってきたわたしが改名するということは、今まで出会ってきた在日の子どもたちへの裏切りになるのではないかと、わたしは考えていたのです。ところが、ある日Jさんは悩んでいるわたしに「どの名前があんたにとってのカムアウトかわからへんね。『いつき』に改名したら、『元の名前は謙一郎なんです』というカムアウトがあるだろうし、そっちが本当のカムアウトなんかもしれないね」と言ってくれました。この言葉はわたしの気持ちをとても軽くしてくれました。

もうひとつあった「女性ホルモンの投与」は「改名」への気持ちとはまったく違いました。

Jさんに2001年に県立岡山病院で反対されて以来、何度も話をしましたが、説得することはできませんでした。その後、ネットでの情報をもとにさまざまなサプリメントを試しましたが効果は望むべくもありませんでした。それでも、ホルモン投与することなくどこまで女性的な外見を得られるのか、試行錯誤をしてきました。その努力が一定実を結んだ時、あらためて外見のためではなく、自分のこだわりとして女性ホルモンを投与したいという思いがわきあがってきたのです。もちろんJさんは拒否しました。それでも何度も何度も話をした最後、Jさんは言いました。

わたしに相談するな。わたしが許可を出したら、あなたは喜んでやるだろう。わたしは「いいよ」とは言えない。あなたがしたいんだったら、その結果に対して、あなたは自分で責任をとりなさい。そのことで肝臓がダメになったり、あるいは離婚することになったとしても、その責任はあなたにあるんだから、あなたが自分で責任をとりなさい。わたしの許可をとるな。

そのとおりだと、わたしは思いました。離婚の危機があろうと身体へのインパクトがあろうと、それは自分のやり方で乗り越えていくことだと思いました。

そして2003年12月、県立岡山病院に行き、改名のための診断書と、関西医科大学附属病院への紹介状を手に入れました。

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

ヒゲの社会的変遷

考えてみれば、毛というのは不思議なものである。いや、毛が不思議なのではなく、人間の感受性が、といってもいい。同じ毛でもそれが鼻孔から一本顔をのぞかせていれば、どこか間抜けな印象になり、鼻のすぐ下にあれば、力の記号になったり性的なアピールになったり…。たった数センチの位置の違いで、まったく異なる感覚が生じてくるのだ。

本書はヒゲについての研究書である。一口にヒゲといっても、漢字では、頬に生えたものは「髯」で、鼻や口にあるのは「髭」、あごのは「鬚」と表記する、といった蘊蓄から、ヒゲの歴史、社会的メッセージまでをたどることで、一つの「男性史」を描き出すのが意図だという。

日本では剃刀が仏教とともに大陸から渡ってきたことで、まず僧侶たちがヒゲを剃りはじめ、平安時代末期に貴族のあいだで「眉つくり」「薄化粧」がはじまるとヒゲも剃られるようになった。諸説あるようだが、それが時代を下るとともに他の階級にも広がっていく一方で、武士階級の台頭によってヒゲが権力を象徴するものとして誇示されもした。

しかし武威を称揚する戦国時代が終わり、江戸時代になると1670年に「大ヒゲ禁令」が出て、ヒゲなしが一般的になった。

そのうちに、ペリーの来航とともに近代化の時代が到来する。瓦版などで西洋人がヒゲとともに描かれたことで、「ヒゲ＝文明への転換」がはじまった。幕末・維新期から1900（明治33年）くらいまでの明治中期には、ヒゲは「文明の表象として推奨…のみならず、支配者は文明人であることをもって自らを権威づけようとしたから、ヒゲは権威・権力を示す記号として機能した」

ヒゲの日本近現代史
阿部恒久



明治期・大正期・昭和前期・昭和後期・戦後
ヒゲの有り／無しは
時代を映す鑑
講談社現代新書

ヒゲの日本近現代史

阿部恒久
講談社現代新書
798円（税込み）

さて、第二次世界大戦の軍国主義の時代には、ヒゲが戦意高揚と結びつけられることがあったが、戦後になると、高度経済成長でサラリーマン社会が広がり、そこではヒゲは徹底的に否定されることとなった。「その大きな理由は、客に不快感・違和感・威圧感を与えないため」。

それから、1960年代にもなると、左翼運動の盛り上がりとともに、反体制の記号として無精髭がもてはやされたり、ひとつの「おしゃれ」として演出に用いられるようになった。…というのが、著者がたどったヒゲの日本史である。

あらすじとしては平凡に思われるかもしれないが、本書の醍醐味はむしろ、著者のヒゲ観察への尋常ならざる情熱にあるだろう。総合雑誌『太陽』で創刊号（1895年）から1918年までに掲載された口絵や写真の男性たちを詳細に観察し、「どれくらいの方がヒゲを蓄えているのか、どんなヒゲか、逆にヒゲを蓄えていない人は誰かを検討した」という熱心さには瞠目せざるを得ない。

蛇足ではあるが、本書が述べるように、歴史的に、ヒゲを含め男性の体毛に対して女性たちが好ましからざる感情を抱いてきたことは否定できない。が、近年、そうした女性の視線も変化している。初期の女性向け漫画のなかでは男性の体毛はせいぜいコミカルな文脈でしか描かれてこなかったが、90年代初頭になると、桜沢エリカが先鞭を付け、男性のへそから股間にかけてのそれを、明らかに性的な記号として描写している。

現在では、女性の視線を意識しないでは男たちはヒゲを演出することはできないし、ドヤ顔でたくわえられたそれは失笑しか買わない。かつてヒトラーを戯画化したチャップリンは、男たちの独善的なヒゲアピールを笑う先駆けでもあったのかもしれない。

（作家 伏見憲明）

▶▶ 12月21日(土) 13:30 ~ 17:00 ◀◀

関西性教育研修セミナー2013 冬

LIVING TOGETHER ～池上千寿子が歩み続ける道～

内 容 ぶれいす東京の元代表であり、関西性教育研修セミナー運営委員会の顧問でもある池上千寿子さんを迎え、池上さんが共に歩んだ HIV / AIDS のこれまで、性科学、「性の健康／権利」「協働」「教育」をテーマにセミナーを開催します。

会 場 大阪府立大学 I-site なんば C 1 (大阪市浪速区敷津東 2-1-41) TEL 06-7656-0441 (会場問い合わせのみ)

参加費・問合せ先等

参加費 / 1,500 円 (資料代) 定 員 / 80 名 (先着順・予約制) 対 象 / 子どもへの支援・教育に関わる方、テーマに関心のある方。
主 催 / 関西性教育研修セミナー運営委員会 協 賛 / 日本性教育協会
問合せ先 / E-mail higashi@sw.osakafu-u.ac.jp (お名前・所属・連絡先を明記してお申込下さい)

関西性教育研修セミナー運営委員会は、性教育と性の健康に関する研修の企画と実施などの活動を行っています。学校や地域での性教育や性の健康に関する取り組みを進め、性の課題に関するさまざまな人がつながること、そして性教育を次世代につなげていくことを目指して活動しています。

11/23(土)

第9回

「ピアカウンセラー養成者」 養成セミナー

11/24(日)

【内容】1日目(10:30 ~ 20:00)

- オープニングエクササイズ
- ピアカフェ I : 活動報告と情報交換
- エンカウンター演習
- 活動報告を聞いて

2日目(9:00 ~ 16:00)

- コカウセリング & 振り返り
- ピアカフェ II & グループ討議: 環境づくり I
- ピアカフェ II & グループ討議: 環境づくり II

講師: 高村寿子 (自治医科大学)

石田登喜子 (ふくしま思春期サポーターの会) ほか

【会 場】 保健会館新館多目的ホール

(東京都新宿区市谷田町 1 - 10)

【主催・問い合わせ等】 参加費 / 46200 円 (税込) 定員 / 18 名

主催・問合せ先 / 一般社団法人日本家族計画協会 研修担当

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町 1 - 10 保健会館新館

TEL 03-3269-4785 FAX 03-3267-2658

URL <http://www.jfpa.or.jp/>

▶▶ 12月1日(日) 9:00 ~ 17:00 ◀◀

第12回

がん患者さんの性を支援する研修会

内 容

- 総論① 女性の性反応と性機能障害
大川玲子 (国立病院機構千葉医療センター・医師)
- 総論② がんが性に与える影響
高橋 都 (国立がん研究センター・医師)
- 各論① 乳がん (高橋 都)
- 各論② 婦人科がん (大川玲子)
- 各論③ がん薬物療法 (渡邊知映・昭和大学看護師)
- 各論④ ストーマ造設 (渡邊千登世・北野病院看護師)

会 場

東京慈恵会医科大学西新橋校舎 1 号館 5 階講堂
(JR 新橋駅烏森口より徒歩約 15 分)

主催・問い合わせ等

主 催 / 日本がんと性研究会 (〒261-0014 千葉県美浜区若葉 2-10-1
千葉県立保健医療大学看護学科内)

対 象 / 看護師、助産師、保健師、医師、ソーシャルワーカー、
薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士ほか

受講料 / 10,000 円 定員 / 50 名

申込み方法 / <http://square.umin.ac.jp/oncosexo/schedule.htm> の
申込みフォームから

「若者の性」白書

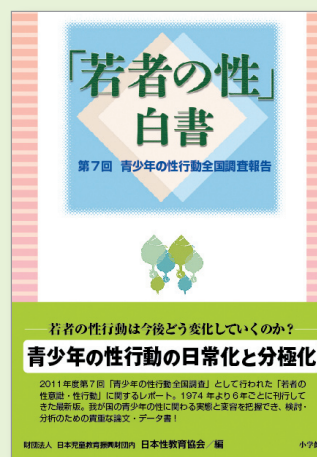
好評
発売中!!

第7回 青少年の性行動全国調査報告

2011年度第7回「青少年の性行動全国調査」として行われた「若者の性意識・性行動」に関するレポート。1974年より6年ごとに刊行してきた最新版。我が国の青少年の性に関わる実態と変容を把握でき、検討・分析のための貴重な論文・データ書！

◆主な内容◆

- 序章 第7回「青少年の性行動全国調査」の概要
- 第1章 青少年の性行動の低年齢化・分極化と性に対する新たな態度
- 第2章 欲望の時代からリスクの時代へ
—性の自己決定をめぐるパラドクス—
- 第3章 青少年の家庭環境と性行動
—家族危機は青少年の性行動を促進するのか—
- 第4章 消極化する高校生・大学生の性行動と結婚意識
- 第5章 青少年にみるカップル関係のイニシアチブと規範意識
- 第6章 高校生・大学生の避妊に関する意識と行動
—避妊行動の分化に着目して—
- 第7章 現代日本の若者の性的被害と恋人からの暴力
- 第8章 自慰経験による女子学生の分化
- 第9章 性情報源として学校の果たす役割
—性知識の伝達という観点から—
- 付表Ⅰ 「青少年の性に関する調査」調査票
- 付表Ⅱ 基礎集計表（学校種別・男女別）



編／財団法人日本児童教育振興財団内
日本性教育協会
発行／小学館

本体2,310円（税込） ● A5判256ページ
全国の書店にてご購入できます！

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約5万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】 必ず事前に電話で予約が必要です（tel 03-6801-9307）。貸出業務は行っておりません。

【開室日・時間】 月～金曜日 10：30～17：30

【休室日】 土・日曜日、祝日、年末年始 ※この他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】 コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。

<http://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

資料室 利用方法

収集文献 ・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイヤモンド文庫、ほか。

<http://www3.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi>